

国語

11月13日（木）

	学級	授業者	単元名・題材名
公開授業 1 13:00～	3年3組	渡邊 郁美	れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう 「すがたをかえる大豆」 「食べ物のひみつを教えます」
	5年4組	牛丸 裕晶	伝記を読み、自分の生き方を考える 「やなせたかしーアンパンマンの勇気」
公開授業 2 14:00～	4年4組	田口 幹大	中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう 「未来につなぐ工芸品」 「工芸品のみりょくを伝えよう」

単元構想図

単元名

れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう「すがたをかえる大豆/食べ物のひみつを教えます」（第3学年）

【出口で目指す姿】

【知識及び技能】

・比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使うことができる児童。【（2）イ】

【思考力、判断力、表現力等】

・目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる児童。【C（1）ウ】

・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる児童。【B（1）イ】

【学びに向かう力、人間性等】

・伝えたいことが分かりやすく伝わるように、筆者の説明の工夫を見付け、自分の文章に生かす児童。

【単元のつながり】

3年「ありの行列」

段落どうしのつながりに気を付けて読み、互いの共通点・相違点に注意しながら感想を伝え合う。

4年「未来につなぐ工芸品」

まとまりごとに中心となる語や文を確かめ、分量を考えて要約する。

4年「工芸品のみりよくを伝えよう」

理由や事例を挙げて考えを伝える。

学習計画	評価規準・評価方法	記録
第12時 互いの書いた文章を読み合い、感想を伝え合う活動を行い、自分の文章のよいところを見付けることができる。【思考力、判断力、表現力等B（1）オ】 ⑨ なか間の文章を読んで、感想を伝え合おう。		
第10・11時 「食べ物へんしん書」を書く活動を行い、これまでに学んだ説明の工夫を生かして、食べ物のひみつを説明する文章を書くことができる。【思考力、判断力、表現力等B（1）ウ】 読み手に伝えたいことが伝わるように、文章の組み立てや例の挙げ方を工夫して書こうとすることができる。【学びに向かう力、人間性等】 ⑩ 「食べ物へんしん書」をかんせいさせよう。	【主体的に学習に取り組む態度】記述分析 ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えて書こうとしているかの確認	○
第9時 文章の組み立てと例の挙げ方を考える活動を行い、まとまりごとに段落を作ったり、読み手を意識した例の挙げ方にしたりして、読む人が分かりやすい文章の構成を考えることができる。【思考力、判断力、表現力等B（1）イ】 ⑩ 文章の組み立てやれいの書き方を考えよう。	【思考・判断・表現】記述分析 ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えているかの確認	○
第7・8時 自分が説明したい食べ物について調べる活動を行い、おいしく食べる工夫や食品などを整理することができる。【思考力、判断力、表現力等B（1）ア】 調べた事柄を項目ごとに整理したり、辞書の使い方を理解し、使ったりすることができる。【知識及び技能（2）イ】 ⑩ せつ明したい食べ物について調べて整理しよう。	【知識・技能】記述分析 ・比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使っているかの確認	○
第6時 筆者の説明の仕方について考える活動を行い、読み手を意識した例の挙げ方や写真の使い方に着目して、自分の感想や考えをもつことができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）オ】 ⑩ 国分さんのせつ明のくふうについて考えよう。		
第5時（本時） 筆者が、どのように例を挙げているかを考える活動を行い、中心となる文に着目すると、筆者は読み手を意識して例の順序を考えて書いていることを理解することができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ア】 中心となる文に着目して、例の順序の意図を読み取ろうとすることができる。【学びに向かう力、人間性等】 ⑩ 国分さんは、れいをどのようなじゅんじょにしているのだろう。	【主体的に学習に取り組む態度】記述分析 ・中心となる文に着目して、例の挙げ方の順序の意図を読み取ろうとしているかの確認	○
第4時 問いの答えになる部分を読み取る活動を行い、「中」の「～するくふう」という叙述に着目して、「中」の段落の中心となる文を見付けることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ウ】 ⑩ 「中」の段落の中心となる文はどこにあるのだろう。	【思考・判断・表現】記述分析 ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けているかの確認	○
第3時 問いを入れるとしたら、どこにどんな問いを入れるか考える活動を行い、問いの答えは「中」に書いてあることに着目して、「中」に書いてある内容から文章全体の話題をとらえ、隠れた問いを考えることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ア】 ⑩ どこに、どんな「問い」が入れられるだろう。		
第2時 文章の組み立てや具体例を読み取る活動を行い、接続語や例が書かれている段落に着目して、文章全体の組み立てや本文で書かれている具体例を捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ア】 ⑩ 「はじめ」「中」「終わり」には、どんなことが書いてあるのだろう。		
第1時 《単元を貫く課題》 食べ物のひみつ教えます！ ～国分さんの説明のくふうを見つけよう～ 本文を通読し、初発の感想を交流する活動を行い、筆者の説明の工夫を読み取り、自分の文章に生かしていく学習の見通しをもつことができる。 ⑩ 一番おどろいたものについて、話し合おう。	ここでは、「記録に残す評価」のみを位置付けているが、学習内容を確実に習得できるようにするため、「指導に生かす評価」を単元を通して適宜行う。	

【既習内容】	
2年「紙コップ花火の作り方」	順序を捉えたり、文章と写真を対応させたりして読み、大事な言葉や文を見付ける。
2年「おもちゃの作り方をせつめいしよう」	順序が分かるように書く。
3年「文様/こまを楽しむ」	段落とその中心を捉えて読む。
3年「全体と中心」	全体と中心の関係に着目して、理解・表現する。
3年「ポスターを読もう」	作られた目的や対象を考えながら読む。

■ 教科:国語科	■ 単元名:れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう すがたをかえる大豆/食べ物のひみつを教えます (5/12)
■ 授業者:渡邊 郁美	■ 授業学級:3年3組 (北舎3階 3年3組教室)
■ 本時の「ねらい」 筆者が、どのような意図で例を挙げているかを考える活動を行い、「中」の各段落の中心となる文に着目すると、筆者の意図を捉えることができると考え、筆者は読み手を意識して例の順序を考えていることを理解することができる。 【思考・判断・表現等C(1)ア】	
■ 本時に働かせる見方・考え方 【見方・考え方】各段落の中心となる文に着目する。	

時間	●学習活動 ・児童の姿	「ねらい」にせまるための手立て
0 課題化	食べ物のひみつ教えます！～国分さんの説明のくふうを見つけよう～ ●本時の課題を確認する 国分さんは、れいをどのようなじゅんじょにしているのだろう。	◇研究内容1:「個別最適な学び」 ○課題解決に向け、個の意識に応じて追究方法を選択できるようにする。
5 個人追究・小集団での対話	●個人追究【自分の考えをもつ→小集団での対話】 筆者が例を本文にある順序で挙げている意図を読み取る。 ・第3段落の最初に、「いちばん分かりやすいのは」って書いてあるから、作り方が簡単順になっていると思う。 ↓ ・第3段落には、「いる」「水につけてやわらかくしてからにる」工夫、第4段落には、「いって、こなにひいた」工夫、第5段落には、「水にひたし、なめらかになるまですりつぶ」す工夫が書いてあって、だんだん作り方が難しくなっていると思うよ。この順序だと、読みやすいんじゃないかな。 ・第5段落にも第6段落にも「ちがう食品にするくふう」という言葉が書いてあるから、作り方が難しそうだな。 ↓ ・第5段落には、「大豆を一ばん水にひたし」第6段落には、「小さな生物の力をかり」「半年から一年の間おいておく」と書いてあるから、他の例と違って、違う食品にするために時間もかかっているよ。作る時間がだんだん長くなる順番にすると、分かりやすいと思うよ。	・児童が学習内容に立ち返って考えがもてるようにするために、前時までの学びの足跡や、「たいせつ」の学習内容を掲示する。 ・児童が考えをもてるようにするために、2～3つの例を比較させたり、工夫の説明の記述や「いちばんわかりやすいのは」「次に」という言葉に着目させたりして、個別支援をする。
30	●深めの発問と追究 教師が並び替えた例の順序と比較し、順序が変わると、読み手の感じがどう変わるかを考える。	◇研究内容2:「協働的な学び」 ○「対話の視点」を示すことで、根拠をもって、それぞれの考えを伝えたり、理解しようとしたりする姿を生み出し、よりよい考えへと高めていくことができるようにする。
40 まとめ	●まとめ【目指す子どもの姿(評価)】 【B】筆者は読み手を意識していることを捉えている。 ・国分さんは、読む人に分かりやすくするために、れいのじゅんじょをかんたんじゅんにしている。 【C】筆者が読み手を意識していることを捉えられていない。	【対話の視点】 教科書の言葉をもとに理由をはっきりさせよう。
45	●振り返り ・読む人に分かりやすいように、れいのじゅんじょもくふうしていることが分かった。私も読む人のことを考えてじゅんじょを決めたい。	○深めの発問をすることで、より自分の考えを確かなものにできるようにする。

板書計画



単元構想図 単元名 伝記を読み、自分の生き方について考えよう「やなせたかしーアンパンマンの勇気」（第5学年）

【出口で目指す姿】

【知識及び技能】

・日常的に伝記に親しみ、伝記を読むことを通して自分の考えを広げることができる児童。【（3）オ】

【思考力、判断力、表現力等】

・複数の叙述を根拠に、人物像を具体的に想像することができる児童。【C（1）エ】

・伝記を読んで理解したことに基づいて、自分自身とつなげて考えをもつことができる児童。【C（1）オ】

【学びに向かう力、人間性等】

・伝記を読み、進んで、偉人の人生や人物像を具体的に想像したり、自分自身とつなげてまとめたりすることができる児童。

➡

【単元のつながり】

5年「大造じいさんとガン」

表現の工夫や効果に着目して読む。

6年「ぼくのブック・ウーマン」

物語に描かれていることと、自分の知識や経験などと結び付けて、考えをまとめる。

学習計画	評価規準・評価方法	記録
第6時 伝記を読むことで偉人たちの考え方に触れ、自分の考えを広げることに関立つと気付くことができる。【知識及び技能（3）オ】 「なりたい自分サポートブック」を読み合い、感想を交流する活動を行い、自分と仲間の考えや根拠の共通点や相違点に着目して、自分の考えを広げることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）カ】 🗣️ 「なりたい自分サポートブック」を読み、なりたい自分をアップデートしよう。	【知識・技能】記述分析 ・読書が役立つことに気付いているかの確認	○
第5時 「なりたい自分サポートブック」をつくる活動を行い、既習事項に着目して、「なりたい自分サポートブック」を完成させることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）オ】 進んで、偉人の人物像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとするすることができる。【学びに向かう力、人間性等】 🗣️ 「なりたい自分サポートブック」を完成させよう。	【思考・判断・表現】記述分析 ・自分自身の体験とつなげて考えをまとめているかの確認 【主体的に学習に取り組む態度】記述分析 ・進んで、偉人の人物像を具体的に想像し、考えをまとめようとしているかの確認	○
第4時 「たかし」の生き方を参考にこれからの自分の生き方を考える活動を行い、共感したり憧れを感じたりしたことに着目して、自分の目指す生き方をまとめることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）オ】 🗣️ 「たかし」の生き方から、これからの自分の生き方を考えよう。		
第3時（本時） 「たかし」の人物像を具体的に考える活動を行い、行動や会話、心情や様子などを表している複数の叙述に着目して、それらの叙述から考えた性格や考え方などを総合して人物像を想像することができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）エ】 🗣️ 「たかし」はどんな人だろう。	【思考・判断・表現】記述分析 ・複数の場面の叙述を根拠にしているかの確認	○
第2時 「たかし」の人生に大きな影響を与えた出来事は何かを考える活動を行い、登場人物の相互関係、行動や心情、出来事を表す描写に着目して、「たかし」の考え方に大きな影響を与えたことを捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）イ】 🗣️ 「たかし」の考え方に大きな影響を与えたのは、どんな出来事だろう。		
第1時 《単元を貫く課題》 『何のために生まれて、何をして生きるのか』～伝記から偉人の生き方を学び、なりたい自分のヒントを見つけよう～ 本文を通読する活動を行い、伝記を読むことに関心をもち、「なりたい自分サポートブック」完成までの見通しをもつことができる。 🗣️ 「たかし」の生き方について心に残ったことを話し合おう。	ここでは、「記録に残す評価」のみを位置付けているが、学習内容を確実に習得できるようにするため、「指導に生かす評価」を単元を通して適宜行う。	

【既習内容】	
4年「ごんぎつね」	人物の気持ちの変化を捉えて、感想をもつ。
5年「銀色の裏地」	表現に着目して、人物の心情や関わりを捉える。
5年「たずねびと」	中心となる人物が会う人やものの役割を考えるなどして、物語の全体像を想像する。

■ 教 科:国語科		■ 単 元 名:伝記を読み、自分の生き方を考える やなせたかしーアンパンマンの勇氣 (3/6)										
■ 授業者:牛丸 裕晶		■ 授業学級:5年4組 (北舎4階 5年4組教室)										
■ 本時の「ねらい」 「たかし」の人物像を具体的に考える活動を行い、複数の場面から、「どんな仕事も決して手をぬかなかった」などの行動や「ぼくも、何かできることをしなければ」などの会話、「傷ついた人たちのために何かしたかった」などの心情や様子などを表している複数の言葉に着目すると、「たかし」の性格や考え方などを総合して人物像を判断することができると考え、「たかし」はどんな人なのか想像することができる。【思考力・判断力・表現力等 C(1)エ】												
■ 本時に働かせる見方・考え方 【見方・考え方】「たかし」の行動や会話、様子が表れている言葉に着目する。												
時間	●学習活動 ・ 児童の姿		「ねらい」にせまるための手立て									
0	『何のために生まれ、何をして生きるのか』 ～伝記から偉人の生き方を学び、なりたい自分のヒントを見つけよう～		◇研究内容1:「個別最適な学び」 ○課題解決に向け、個の意識に応じて追究方法を選択できるようにする。 ・児童が既習の学習内容に立ち返って考えがもてるようにするために、前時までの学びの足跡や、「たいせつ」の学習内容を掲示する。 ・児童が考えがもてるようにするために、「どの場面から考えてみようかな」などと問いかけ、個別支援をする。 ○考えをもつための根拠となる言葉を個の意識に応じて、自由に選ぶことができるようにする。									
3 課題化 5	●本時の課題を確認する 「たかし」はどんな人だろう。 ●個人追究【自分の考えをもつ→小集団での対話(グループ交流)】 <table><tr><td>・「本格的に美術をするために上京」(P174L9)や「夢がよみがえってきた」(P177L8)とあるから、夢をあきらめず頑張れる人だと思う。</td><td>・「今も世界中に戦争をしている国があって、あのときのぼくよりもっと苦しい思いをしている人たちがいる。うえて、死んでしまう子どももいる。その人たちを助けるのは、どんなときも正しいことのはずだ」(P177L2)や「ぼくも、何かできることをしなければ」(P173L5)とあるから、優しい人だと思う。</td><td>・「どんな仕事も決して手をぬかなかった」(P178L1)や「人氣がなくてもアンパンマンをかき続けた」(P179L4)とあるから、責任感がある、真面目な人だと思う。</td></tr><tr><td>↓</td><td>↓</td><td>↓</td></tr><tr><td>・他にも、「どんな仕事も決して手を抜かない」(P178L1)というところからも、夢をあきらめず頑張れる人だと分かるね。</td><td>・同じ言葉だけど、私は、身の回りの人だけじゃなくて、だれに対しても行動ができる優しい人だと思ったよ。</td><td>・他にも、「傷ついた人たちのために何かしたかった」(P180L9)とあるから、責任感があるだけじゃなくて、人のために動ける優しい人だと思う。</td></tr></table>		・「本格的に美術をするために上京」(P174L9)や「夢がよみがえってきた」(P177L8)とあるから、夢をあきらめず頑張れる人だと思う。	・「今も世界中に戦争をしている国があって、あのときのぼくよりもっと苦しい思いをしている人たちがいる。うえて、死んでしまう子どももいる。その人たちを助けるのは、どんなときも正しいことのはずだ」(P177L2)や「ぼくも、何かできることをしなければ」(P173L5)とあるから、優しい人だと思う。	・「どんな仕事も決して手をぬかなかった」(P178L1)や「人氣がなくてもアンパンマンをかき続けた」(P179L4)とあるから、責任感がある、真面目な人だと思う。	↓	↓	↓	・他にも、「どんな仕事も決して手を抜かない」(P178L1)というところからも、夢をあきらめず頑張れる人だと分かるね。	・同じ言葉だけど、私は、身の回りの人だけじゃなくて、だれに対しても行動ができる優しい人だと思ったよ。	・他にも、「傷ついた人たちのために何かしたかった」(P180L9)とあるから、責任感があるだけじゃなくて、人のために動ける優しい人だと思う。	○考えをもつための根拠となる言葉を個の意識に応じて、自由に選ぶことができるようにする。 ◇研究内容2:「協働的な学び」 ○考えを深め合うことのできる対話の場を設定する。 ・多様な考えに触れ、複数の意見を吟味し、結論を出せるようにするために、今回は固定されたグループでの対話の場を設定している。 ○「対話の視点」を示すことで、根拠をもって、それぞれの考えを伝えたり、理解しようとしたりする姿を生み出し、よりよい考えへと高めていくことができるようにする。
・「本格的に美術をするために上京」(P174L9)や「夢がよみがえってきた」(P177L8)とあるから、夢をあきらめず頑張れる人だと思う。	・「今も世界中に戦争をしている国があって、あのときのぼくよりもっと苦しい思いをしている人たちがいる。うえて、死んでしまう子どももいる。その人たちを助けるのは、どんなときも正しいことのはずだ」(P177L2)や「ぼくも、何かできることをしなければ」(P173L5)とあるから、優しい人だと思う。	・「どんな仕事も決して手をぬかなかった」(P178L1)や「人氣がなくてもアンパンマンをかき続けた」(P179L4)とあるから、責任感がある、真面目な人だと思う。										
↓	↓	↓										
・他にも、「どんな仕事も決して手を抜かない」(P178L1)というところからも、夢をあきらめず頑張れる人だと分かるね。	・同じ言葉だけど、私は、身の回りの人だけじゃなくて、だれに対しても行動ができる優しい人だと思ったよ。	・他にも、「傷ついた人たちのために何かしたかった」(P180L9)とあるから、責任感があるだけじゃなくて、人のために動ける優しい人だと思う。										
30	●補助発問と追究 一つの場面の叙述だけを根拠とした読み取りでよいか考える。											
まとめ	●まとめ【目指す子どもの姿(評価)】 【B】 複数の場面の叙述を根拠に人物像を想像している。 ・「たかし」は勇氣がある人。どれだけつらいことがあっても夢をあきらめなかったし、信念をもって、体がボロボロになっていても、被災した人たちははげまし続けていたから。 【C】 一つの場面の叙述を根拠に人物像を想像している。											
40	●振り返り ・一つの場面だけでなく、複数の場面の会話や行動から読み取ると、「たかし」がどんな人かよく分かった。今度は手塚治虫がどんな人かを複数の場面から考えてみたい。		【対話の視点】 教科書の言葉をもとに根拠をはっきりさせよう。									
45												

板書計画

単元構想図

単元名

中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう「未来につなぐ工芸品/工芸品のみりょくをつたえよう」（第4学年）

【出口で目指す姿】

【知識及び技能】

・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる児童。【（3）オ】

【思考力・判断力・表現力等】

・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫できる児童。【B（1）ウ】

・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる児童。【C（1）ウ】

【学びに向かう力、人間性等】

・積極的に、中心となる語や文を見付けて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫したりして、調べて分かったことをまとめて書こうとすることができる児童。

【単元のつながり】

4年「風船でうちゅうへ」

・興味をもったことを中心に要約し、文章に対する感じ方の違いやよさを考える。

5年「固有種が教えてくれること/自然環境を守るために」

・文章以外の資料を用いた効果を考えながら読む。

・目的に合った資料を選び、資料と文章を対応させて書く。

学習計画	評価規準・評価方法	記録
第12時 互いに書いた文章を読み合う活動を行い、自分の文章のよいところを見付けることができる。【思考力、判断力、表現力等B（1）オ】 ㊦ かんせいしたリーフレットを友だちと読み合い、感想を伝え合おう。		
第10・11時 自分のリーフレットを作る活動を行い、既習事項を確認しながら、既習事項を基に、書き表し方を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等B（1）ウ】 積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫し、調べて分かったことをまとめて書くことができる。【学びに向かう力、人間性等】 ㊦ 工芸品のみりょくが伝わるリーフレットをかんせいさせよう。	【思考・判断・表現】記述分析 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているかの確認 【主体的に学習に取り組む態度】記述分析 ・積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫し、調べて分かったことをまとめて書くことができたかの確認	○
第9時 リーフレットに載せる文章の組み立てや資料を選ぶ活動を行い、既習事項や教科書の例に着目し、リーフレットの構成を考えることができる。【思考力、判断力、表現力等B（1）イ】 ㊦ リーフレットの2、3ページ目に書く文章の組み立てや資料の使い方を考えて、構成メモを書こう。		
第8時 選んだ工芸品について調べる活動を行い、既習事項や教科書の例に着目して、伝えたいことを明確にすることができる。【思考力、判断力、表現力等B（1）ア】 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立っていることに気付くことができる。【知識及び技能（3）オ】 ㊦ 選んだ工芸品について調べ、じょうほうを整理して、書くことを決めよう。	【知識・技能】記述分析 ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立っていることに気付いているかの確認	○
第7時 リーフレット作りの見通しをもち、取り上げる工芸品を選ぶことができる。 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立っていることに気付くことができる。【知識及び技能（3）オ】 ㊦ リーフレット作りの見通しをもち、観光客に伝えたい工芸品を選ぼう。		
第6時 筆者の考えについて自分の考えをもつ活動を行い、筆者の書きぶりのよさに気付き、自分の考えをまとめることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）オ】 ㊦ 筆者の考えについての自分の考えをまとめることができる。		
第5時（本時） 文章全体を要約する活動を行い、「中」の中心となる語や文を使うとよいことに気付き、分かりやすい要約をすることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ウ】 ㊦ 筆者の考えがよりよく伝わるように、文章全体を200字で要約しよう。	【思考・判断・表現】記述分析 ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約しているかの確認	○
第4時 文章全体を要約する活動を行い、説明する文章を要約するポイントに着目し、「初め」と「終わり」の中心となる語や文を使い、おおまかな要約をすることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ウ】 ㊦ 筆者の考えが伝わるように、文章全体を要約しよう。		
第3時 「初め」「中」「終わり」の中心となる語や文を検討する活動を行い、くり返し書かれていること等に着目して、中心となる語や文を見付けることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ウ】 ㊦ まとまりごとに中心となる語や文を見つけよう。		
第2時 「初め」「中」「終わり」のまとまりに分ける活動を行い、筆者が伝えたいことに気付き、例の役割を理解することができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ア】 ㊦ 「初め」「中」「終わり」のまとまりに分け、筆者の伝えたいことをとらえて、例の役わりを考えよう。		
第1時 《単元を貫く課題》 高山ならではの工芸品のみりょくを伝えよう ～説明の工夫を読み取って、分かりやすいリーフレットを作ろう～ 「未来につなぐ工芸品」を読む活動を行い、問いをもち、単元の出口を理解して、学習の見通しをもつことができる。 ㊦ 「未来につなぐ工芸品」を読んで、工芸品にどんなみりょくを感じたか話し合おう。	ここでは、「記録に残す評価」のみを位置付けているが、学習内容を確実に習得できるようにするため、「指導に生かす評価」を単元を通して適宜行う。	

【既習内容】

3年「すがたをかえる大豆/食べ物のひみつ教えます」

4年「思いやりのデザイン/アップとルーズで伝える」

4年「パンフレットを読もう」

話題と、事例の書かれ方を捉えて読む。適切な事例を挙げ、構成や順序、絵や写真の示し方を工夫する。

文章構成や段落どうしの関係を確かめ、筆者の考えを捉える。

作られた目的や対象を踏まえて、自分に必要な情報を中心に読む。

■ 教 科：国語科	■ 単 元 名：中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう 未来につながる工芸品/工芸品のみりよくを伝えよう (5/12)
■ 授業者：田口 幹大	■ 授業学級：4年4組 (北舎3階 4年4組教室)

■ 本時の「ねらい」

「未来につながる工芸品」の文章全体について、筆者が何を言いたいのかを読む人によりよく伝えるために要約する活動を行い、4年上「要約するとき」の、説明する文章を要約するときのポイントに着目すると、要約する文字数が増えたとき、筆者の考えをよりよく伝えるためには「中」の中心となる語や文を使うとよいと考え、文章全体を200字で要約できる。
【思考力・判断力・表現力等 C(1)ウ】

■ 本時に働かせる見方・考え方

【見方・考え方】説明する文章を要約するときのポイントを表す言葉に着目する。

時間	●学習活動	・児童の姿	「ねらい」にせまるための手立て
0 3 課題化	「未来につながる工芸品」を読んで気づいた説明の工夫を使って、高山ならではの工芸品のみりよくを、高山に来た観光客にリーフレットで分かりやすく伝えよう。		◇研究内容1:「個別最適な学び」 ○課題解決に向け、本時に働かせる見方・考え方を示すことで、考えをもつための手がかりとなるようにする。
5 個人追究	●本時の課題を確認する 筆者の考えがよりよく伝わるように、文章全体を200字で要約しよう。		○課題解決に向け、個の意識に応じて追究方法を選択できるようにする。
5 小集団での対話	●個人追究【自分の考えをもつ→小集団での対話(グループ交流)】	「奈良墨」と「南部鉄器」についての説明が必要だと思います。初めて読む人によりよく伝えるには、「中」の内容がくわしく書いてあるほうがいいと思ったからです。 「中」には、問いの答えになる言葉があるから、その言葉を中心に書いていくと思います。「すがたをかえる大豆」で1文目に問いの答えがあつて、わかりやすく説明されていたからです。 2つ目の理由について、2・3文目は、1文目に書かれている理由をくわしくしている文だから、よりよく伝えるためには、ここの言葉を使って要約するといいいじやないかな。	・児童が既習の学習内容に立ち返って考えがもてるようにするために、前時までの学びの足跡や、「たいせつ」の学習内容を掲示しておく。 ・児童が考えをもてるようにするために、「筆者が一番伝えたいことは何だったかな」等と問いかけ、個別支援をする。 ○考えをもつための根拠となる言葉を個の意識に応じて、自由に選ぶことができるようにする。
30	●深めの発問と追究 「初め」と「終わり」だけで書かれた要約と本時で取り組んだ要約を比較し、「中」のまとまりにある語や文を使ったことでどう変わるか考える。		◇研究内容2:「協働的な学び」 ○「対話の視点」を示すことで、根拠をもって、それぞれの考えを伝えたり、理解しようとしたりする姿を生み出し、よりよい考えに高めていくことができるようにする。
40 まとめ	●まとめ【目指す子どもの姿(評価)】 【B】 要約に「中」のまとまりにある中心となる語や文が使えている。 ・(職人の手仕事で一つ一つ作られているものが、「工芸品」と呼ばれており、筆者は、工芸品を未来の日本にのこしていきたいと考えている。)1つ目の理由は、工芸品が、過去、げんざいと続いてきた日本の文化やけいじゆつを、未来につないでくれるからである。2つ目の理由は、かんきょうを未来につないでくれるからである。(筆者は、工芸品にみりよくを感じたら、自分がどう感じたのかを伝えてみてほしいと思っている。)(192字) 【C】 要約に「中」のまとまりにある中心となる語や文が使えていない。		【対話の視点】 教科書の言葉をもとに理由をはっきりさせよう。
45	●振り返り ・要約するとき、これまでは「初め」と「終わり」のまとまりにある語や文だけを使って書いていたけれど、初めて文章を読む人によりよく伝えるためには「中」のまとまりにある中心となる語や文を使えばいいことが分かったよ。		○深めの発問をすることで、自分の考えをより確かなものにできるようにする。

板書計画